

# ボランティア通信

J I N - K A N A 学習塾

松本中学校

栗田谷中学校

神奈川中学校&港中学校

六角橋中学校

白幡小土曜塾

戸塚中土曜塾

青少年の居場所

のびのび学習塾



大口台小学校

神橋小学校

神大寺小学校

白幡小学校

二谷小学校

南神大寺小学校



2016年2月27日



# JIN-KANA学習塾 No.5

## 目次

私 の 目 標	2	成長を感じられる授業	9
科目等履修生 沖野 勇介		英語英文学科 3 年 清水 浩平	
教材を工夫する楽しさ	2	やればできる	9
自治行政学科 4 年 井上 恵理		英語英文学科 3 年 滝沢 葉菜	
生徒と一緒につくる授業を…	3	生徒に合った学習	10
自治行政学科 4 年 森 将嘉		英語英文学科 2 年 荒井 千鶴加	
生徒が主体的に学び考える授業づくり	4	知っているということ	10
自治行政学科 3 年 徳山 綾太		英語英文学科 2 年 三浦 篤史	
少しのきっかけから	5	自信をもって取り組むために	11
自治行政学科 2 年 栗原 涼子		外国語研究科欧米言語文化専攻 佐藤 陽子	
学 び 方 の 工 夫	5	生徒に自信を持たせるために	12
経済学科 3 年 畑岡 友樹		人間科学部 4 年 嶋 由加里	
日々成長	6	生徒の気づきと成長	13
現代ビジネス学科 3 年 川島 悠		電気電子情報工学科 4 年 波々伯部 義樹	
自信につながる授業	7	生徒の変化	14
英語英文学科 4 年 佐藤 千紗		電気電子情報工学科 2 年 宮田 修斗	
生徒に寄り添って	7	生徒の居場所になるために	15
英語英文学科 3 年 安藤 あかね		経営工学科 4 年 神代 正太郎	
私 が で き る こ と	8	日進月歩～共に学び進んでいく	16
英語英文学科 3 年 影山 千恵		物質生命化学科 2 年 高杉 俊	

## 私の目標

### 科目等履修生 沖野 勇介

私がJIN-KANA学習塾を始めてから半年が経ちました。中学3年生を対象に学習支援をしています。後期は高校進学に向けた支援を行う予定です。

私は、「楽しく明るく一人一人の生徒と共に学び合う」という目標を設定し、二つのことを実践しています。一つは、明るく楽しく学ぶためには、挨拶や声かけなどのコミュニケーションを進んで取り組んでいくことです。二つ目は、生徒と一緒に学び合うためには、自ら学ぶ意識を持ち、授業の準備のためにもより多くのことを経験することです。

まず、コミュニケーションを図るには、挨拶をすることが欠かせません。そうしたコミュニケーションから生徒の表情を読み取ることができます。そこから、生徒の言動がどんな状態でなされたものかを考えることは、生徒を理解するためにも大切です。それをもとに生徒一人一人に合った指導を行っていく必要があります。後期の私はKTさんの社会を担当しています。Kさんは物静かですが、話かければ話をしてくれます。当初、Kさんは、中々自分が分からないと言わなかったのですが、声をかけ続けていく内に、質問をしたり、「ここが分かりません」と言うようになりました。最近では、学校の様子や趣味の話もするようになりました。こうした生徒とのコミュニケーションも大切ですが、ボランティアの学生同士のコミュニケーションも大切です。生徒の事を知るためには、様々な面を知ることが大切であり、多くの人の意見に耳を傾けて考えていかなければなりません。自分勝手な考えや思い込みは、生徒のことを誤解する可能性があります。そうならないように、日頃からコミュニケーションを図っていかなければなりません。

次に、一緒に学ぶためには、自ら進んで学ぶ必要があります。それは常日頃から意識し、実行しなければなりません。私たちが学ぶ意識がなければ、生徒はそれをすぐに察知します。それでは、生徒の学びたい意思を削いでしまいます。せっかく、学ぶために貴重な時間を使って来ているのです。私たちがやる気を見せないのは良くありません。確かに、生徒のやる気を出すのは難しいかもしれませんが。私たちが絶えずやる気といっ

た学ぶ姿勢を見せていくことが大切ではないでしょうか？最初から私たちが諦めていたら、生徒はどうすればいいのかと感じるはずです。私たちが意識を変えなければ生徒は変わりません。学びを通して自らを変えることが大切です。私たちは学習支援を通して生徒から学んでいるのです。このことを忘れずに、後期も私は生徒と共に学んでいきます。

二つの実践を行うに当たっては、ボランティア同士の意見交換や情報共有が不可欠だと私は考えています。JIN-KANA学習塾では、一人の生徒に対してマンツーマンで各教科を学習します。その為に、一人の生徒と関わる時間が長く、その生徒により時間を掛けて学習支援ができます。また、各教科の担当学生同士で意見を交換したり、ボランティアグループ全体で共有する機会も設けられています。その機会を通して、生徒一人一人に対してどのようにボランティアが取り組んでいくべきかを考えなくてはならないのです。問題を共有してチームワークで取組むには、生徒一人一人の視点に立ち、彼らの言動に耳を傾け注視しなければならないのです。なぜなら、生徒一人一人の物事の見方や考え方が異なり、生徒一人一人の個性や特徴が違うからです。違うからこそ、知る必要があるのです。だからこそ、チームが一丸となって取り組んでいかなければならないのです。以上の目標を達成していくためにも、今後とも私は日々学ぶ意思を忘れずに取り組んでいきます。

## 教材を工夫する楽しさ

### 自治行政学科4年 井上 恵理

JIN-KANA学習塾でボランティアを始めて一年半が過ぎました。入塾当初からずっと一緒に勉強をしている生徒とは、大分打ち解けてきたように思えます。今回、その入塾当初から一緒に勉強をしているMさんについて述べていきます。

私は、Mさんの国語と社会科を担当しています。Mさんは、入試を意識し始め宿題を出してほしいと自分から言うなど意欲的な面も見られます。ただ、入塾したばかりのころと比べると、最近はあまり勉強に集中できていません。毎授業の初めと終わりに、必ず「ねむい」「疲れた」と言っています。夜更かしや睡眠不足が原因ではなく、ただ

単にやる気かでないようです。どうにかして集中して勉強に取り組んでほしいと考え、教材を工夫することになりました。

まず、国語で和歌の学習をする際に、絵カルタを作成しました。もともと問題集で学習を進めるつもりだったのですが、急遽変更しました。和歌をイメージした絵を書き、絵カルタを通してそれぞれの和歌の内容を掴むことが目的です。いつものように問題を解く授業ではなかったことで、Mさんはとても集中し、かつ楽しそうに取り組んでいました。和歌の内容も絵で理解し、覚えることができていました。家でテスト勉強をするときも、絵カルタの絵を思い出しながら進めたと断っていました。少し手間をかけるだけで、生徒の意欲を高めることができるのだと実感しました。また、工夫した教材で楽しんでくれることの嬉しさも感じることができました。

次に社会で基本的人権の学習の内容の再確認として、基本的人権のカードを用意しました。カード一枚一枚に、自由権、精神の自由、社会権、教育を受ける権利、などを書いておき、Mさんがこれらのカードを仲間ごとに分類する、ということを考えていました。私は、国語の教材を通して、「Mさんはきっと手を動かす作業が好きなのだろう」と考えていたので、このような教材を考えたのです。ただ、実際にカードを示してもほとんど興味を示さず、全くやる気を高めることができませんでした。文字が書いてあるカードをただ並べるだけだったためにつまらなく感じたのだと思います。今考えると、Mさんは、絵カルタのようにゲーム感覚で勉強できるものだと意欲的になるようでした。生徒がどのようなことに興味を示すのか、ということのを的確にとらえなければ生徒の意欲を高める教材は作れないのだと学びました。また、教材の作り方を工夫するだけでなく、その教材の使い方も工夫しないと、教材の力を十分に発揮できないということもわかりました。

教材を工夫したからと言って、必ず生徒が食いついてくれるわけではありません。ですが、どうしたら生徒が興味を持ってくれるかということを考える楽しさや、実際に教材を使用した時に生徒が楽しそうにしてくれたときの嬉しさはとても大きいです。卒業まで残り少ないですが、生徒に合わせ、生徒の意欲を高められるような教材をたくさん作っていき、教材づくりの力を高めていきます。

## 生徒と一緒につくる授業を…

### 自治行政学科4年 森 将嘉

私は、後期に入りJIN-KANA学習塾（以下：JIN-KANA）で主に0さんの社会を担当しています。授業のときに、心掛けていることが2つあります。

1つ目は、なるべく簡単な言葉を使って、簡潔に説明を行うことです。2つ目は、学生が説明する時間よりも生徒が説明する時間を多くすることです。上記に挙げた2つのことを考える要因となったことは、最初の社会の授業の時に0さんの顔から、徐々に集中力がなくなっていく様子を感じたからです。原因は、私が0さんにわかって欲しいと思い、その社会的事象について、異なった言い回しや普段大学の授業で使うような難しい言葉使いをしたことで、彼のなかで言葉が混乱してしまったのだと思います。また、わかって欲しいと思うあまりに、一方的に教える授業になっていたことも、つまらないと思われてしまった原因だと考えました。その後、社会的事象について簡単な言葉を使い説明を行うようにしました。また、一度学生が説明したことを確認する意味を込めて、生徒が自分の言葉で説明することを学習に取り入れました。はじめは、説明することが嫌そうでしたが、何度か行ううちに、テキストの重要そうな部分に自主的にマーカーを引くようになりました。生徒自身に説明をしてもらうことは、私も0さんの理解度がわかるためよかったと思っています。0さんとのJIN-KANAでの学習をとおして、授業は一方的に教えるだけでは成立せず、生徒との相互関係があって初めて成り立つものだと再確認しました。

もう一つ、最近の0さんとの関わりのなかで成長を感じたことがあります。0さんは、前期の終わり頃にJIN-KANAに入塾してきました。夏休み期間に行われたJIN-KANAとのびのび学習塾の合同キャンプの際に、私は0さんと同じ部屋になりました。その日の夜、学生と生徒が雑談をしている最中に、0さんが「俺は、高校に行くけど途中で辞めて、仕事に就く」と言いました。その時は、私たちは高校を卒業しないと就職先が少ないなどのことを0さんに伝えました。10月に入り周囲の中学生が自分の進学先を固めてきた中で、0さんの口からも志望校の名前がいくつか出てきました。しかし、その学校で何を学びたいのか、とい



う理由を汲み取ることができませんでした。その0さんが11月の末頃になると、「俺は、将来〇〇な仕事に就きたいから、〇〇系の高校に進みたい」と言って明確な将来像を持ち、志望校を口にしました。私は、この0さんが具体的に自身の将来像を持ったことは、とても喜ばしいことだと思います。また、入試までに必要なことは何かが0さん自身の中でも明確化されつつあるので、これからできる限りのサポートをしていきたいと思います。

### 生徒が主体的に学び考える授業づくり

#### 自治行政学科3年 徳山 綾太

今期は、「生徒と共に学ぶ姿勢をもって、主体的に取り組むことができる支援ができるようになる」という目標を設定しました。生徒が主体的に学び考える授業づくりを日々考え、活動をしています。

私は現在、Sさんの数学を担当しています。Sさんは、明るく誰とでもよく話す生徒です。また、最近はいくら以上に集中力が身に付いてきていると感じています。定期テストの前に、平行線と比の定理の問題と三角形の比の定理の問題を解く授業がありました。Sさんが考えてみても分からないところがあったとき、教科書の例題を見るように指示しました。途中で「今の問題と例題で似ているところはないか探してみよう。」というように声掛けをしたところ、Sさんは例題と見比べながら自分で解いていました。二問目を解き始める時には、「分かった」と言ってしっかりと解いていました。その様子を見た時に、生徒が詰まったときに解いている問題の例題があれば、こちらが説明をせずに自分で気付きながら解くことができると思いました。例題は事前準備の時に、詰まることがあったら使おうと思っており、事前準備の重要性にも改めて気付くことができました。また、生徒が自分で気付き解くことができるようになることで、自信につながると改めて実感しました。

他の日に、三角形の相似条件を利用した証明を解く授業がありました。Sさんは証明が苦手で、「定期テストのときにできるようにしておきたい」と言っていました。少しでも自信を付けてほしいと思い、その日は証明だけにしました。以前に、テキストの穴埋め形式の問題を解いていることがあったため、同じ問題を自分の言葉で文章を

書いて解くようにしました。同じ問題であれば、復習にもなると考えたためです。Sさんは一度解いた問題であるということは気付いていました。しかし、頭ではなんとなく分かっていながらも、文章にするということが難しい様子でした。途中で「相似条件のどれにあてはまるかな。」というように声掛けをしました。文章で少し修正することはありましたが、しっかりと解くことができました。授業のあと最終的には、「証明が分かるようになってきた。」と言っていました。また、褒めると嬉しそうにしていました。少しは自信が付いてきたのだと思います。この授業を通して、自分が考えていることを文章にする難しさを改めて実感しました。しかし、できるようになればその分生徒の自信にも繋がると思いました。今後の授業の中でも、取り入れていきます。定期テスト終了後、テストの出来具合を聞いたところ、「証明や比の問題はしっかりとできました。」と言っていました。私が「授業でやったところができて良かったね。」と言うと、「はい、良かったです。」と言って喜んでいました。

入試が近づいてきて、肉体的、精神的につらい時期になります。学習面だけでなく、細かい変化を見逃すことなく精神面でも支えていきたいと思っています。今後も生徒と共に学ぶ姿勢をもち、生徒が主体的に取り組む考える授業づくりを目指します。



## 少しのきっかけから

### 自治行政学科 2 年 栗原 涼子

JIN-KANA 学習塾で学習支援を始めて約 1 年が経ちました。ここで活動を始めたころは、子どもたちと一対一で勉強をするということに責任を感じ、とても緊張したことを覚えています。その気持ちは今でも変わりません。しかし、日々の活動や夏休みに行った宿泊キャンプを通して、今では子どもたちとかかわることに楽しさや喜びを感じるようになりました。JIN-KANA 学習塾での時間は子どもたちの学力向上のみならず、中学生も大学生も互いに学び合う時間であるということを日々の活動を通して実感しています。

私は中学 3 年生の 0 さんの国語の学習を担当しています。彼と初めて会ったころは、こちらから話しかけても反応が少なかったり、表情が硬かったりという感じでした。私はこのままただ学習をしているだけはいけないと思ったので、毎回の授業前や授業後に 0 さんに積極的に話しかけるようにしました。初めは、私の質問や声かけに「はい」や「まあまあ」などと返答することが多かったです。しかし、根気強く話しかけているうちに少しずつ変化がみえました。趣味や特技の話になったときは、いつもの様子と少し違っていました。その時の彼の様子は、とても楽しそうで生き生きとしていました。また、彼の笑顔も見ることができました。0 さんの特技はルービックキューブだと聞いたので、私は「今度、見せてほしいな」と言ったら少し照れた様子で「いいですよ。今度持ってきます。」とってくれました。そして、言葉通りルービックキューブを持ってきて、授業後に披露してくれました。彼の特技を見て、私が「すごい！」と言うと 0 さんは笑顔でとても嬉しそうな様子でした。私はいつもと違った 0 さんの姿を見ることができとても嬉しかったです。このことをきっかけに、0 さんとの関係も少し変わったように思います。最初のころは、私から話しかけることが多かったのですが、次第に 0 さん自身から自分のことを話すようになりました。私は改めて自ら話すこと、生徒の声を聴くことの大切さを知ることができました。

学習面での 0 さんは集中力があり、問題を黙々と進めています。理解力もあり、その日に学習したことを授業の最後に復習するときちゃんと覚えています。基礎的な学習のために使っていた教材も

終わらせているので、今後は、本人が苦手と言っている漢字の読みや書き、長文読解などを進めていきたいと思います。しかし、最近の 0 さんは欠席が続いているため、とても心配です。次回、0 さんが来たときにきちんとした国語の学習のサポートができるように教材の準備を行い、進路の話になったときはきちんと対応ができるようにしていきたいです。

今後も、生徒一人ひとりに合った学習のサポートをしていくことは勿論のこと、日々の生徒の様子をしっかり観察し、声をかけるなど生徒の心に寄り添えるような活動をしていきたいと思います。

## 学び方の工夫

### 経済学科 3 年 畑岡 友樹

JIN-KANA 学習塾の活動に参加して、1 ヶ月ほどが経ちました。最初の頃は、「生徒とコミュニケーションをうまく取れるだろうか」「生徒にしっかり教えられるだろうか」といった不安がありました。しかし、先輩方が生徒と私の間を取り持ってくれ、教えるときにも補助してくれました。加えて、JIN-KANA に来ている生徒たちの人柄にも助けられた部分があります。生徒の多くが、初対面の私に対してでもあまり壁を作らずに会話をしてくれ、私が教えるのに手間取っていると一緒に考えてくれました。こういった周囲の助けのおかげで、私は JIN-KANA に早く馴染むことができ、最初の頃に抱いていた不安はもうなくなりました。

私が担当する K さんは、会った当初から、笑顔で私に接し、勉強以外の事などもよく話をします。活発な子というのが第一印象でした。JIN-KANA の活動を続け、K さんと関わる機会が多くなるにつれて、最初の印象とは違う K さんの一面が見えるようになってきました。K さんは、勉強に対する意欲が高く、自らわからない部分を聞いてきたり、自分で勉強したい分野を考えて来たりもします。教えている最中は熱心に話を聞き、自らが重要だと思った部分はこちらが言わなくてもメモを取ったりしていました。K さんの学習意欲の高さと中学の頃の自分を比べてしまい、驚愕させられています。

K さんに教える際に私が気を付けていること

は、「生徒が考える学び」をしてもらうことです。重要用語などをただ覚えるではなく、その意味や背景なども理解し、知識をしっかりと身に付け、自分のものにして欲しいと思っています。そのために、ある程度学習した後、復習として用語の解説をKさんがするなどの工夫を行っています。また、私は、適切な課題を考えることも重要視しています。Kさんは勉強に関して、あまり自信が無いらしく、勉強に対する不安をもちますことがあります。そこで、Kさんの学習進度に合った適切な課題を用意して、それが解けた場合にはしっかりと褒める。解けなければ、理解するまで一緒に考える。そういう事を繰り返すことにより、苦手をなくしていくとともに、問題が解けるという事実から勉強に対する自信がつくようにしています。

これから、Kさんは入試に向けて勉強していくこととなります。そのKさんをしっかりサポートしていくことが自分の役割であり、そのために、私も教材の研究や指導方法の工夫を考えたりする必要があります。JIN-KANAには教えることがうまく、手本となる人が多いので、そういった人たちから学び、技術や工夫を自分のものにしていきたいと思います。さらに、Kさんのことをこれからもっと知っていき、Kさんに合った学習方法を考えていききたいと思います。



## 日々成長

### 現代ビジネス学科3年 川島 悠

8月からJIN-KANA学習塾に参加させていただいています。現在は週一回の参加ですが、参加するたびに多くのことを学んでいます。当初は中学生とコミュニケーションをとることもうまくできず四苦八苦していましたが、最近になり、ようやく自然なコミュニケーションがとれるようになってきました。授業に関してはまだ不慣れな点が多く、どの教材を使うのが適切か、どんな教え方をすればいいかを考えることを通して、教えることの難しさを実感しています。

私はいまWさんを担当しています。Wさんは外向的な性格で、学校での出来事や日々の出来事などいろいろな話をしてくれます。勉強することはあまり好きではないようですが、JIN-KANA学習塾では真面目に取り組んでいます。当初、苦手の教科に対しては「苦手だからきらい、やりたくない」という様子が見受けられました。わからない問題に直面すると、自分の力で考えてみる前に答えを聞く、といったような様子でした。しかし覚えていくものや、わかるものに対しては積極的に取り組む様子が見られたので、わからないものをなくしていくような授業を心掛けました。また、わからない知識を一方的に説明しただけでは理解につながらないと思い、Wさんと会話するような形で進めていきました。

少しずつ変化が現れ始めたころ、私にとって非常に嬉しいことがありました。それは、Wさんと一緒に基礎問題を解いたあとで、応用問題を解くよう促したところ、自力で解答を導きだせたということです。そのときに、生徒が自分の教えたところを解けるようになっていく姿をみられることが大変うれしいことであることを初めて実感しました。自分の教え方は間違っていなかったのだと、自信にもつながりました。しかし、まだまだ改善していかなければならない点や、努力が必要な点が多くあると感じています。一緒に活動している学生や、教えている生徒から教えてもらうことがたくさんあります。JIN-KANA学習塾に参加する以前よりも力がついている実感はあるので、今後も生徒とのコミュニケーションを大切にしながら、一人ひとりに合ったより良い学習方法を常に模索し、生徒とともに成長していきたいと思っています。

## 自信につながる授業

### 英語英文学科 4 年 佐藤 千紗

私は、小・中学生時代を、超小規模校と呼ばれる学校で過ごしてきました。授業はほぼマンツーマンで指導され、生徒一人ひとりの個性が尊重される、のびのびとした学校生活だったと記憶しています。公立高校に入学し、一般的な人数の中での生活は、個性が埋没した堅苦しいものでした。他人の目を気にしたり、大勢の前で当てられても答えられない、または、間違えることへの恐怖を気にするようになってから、発言も減り、間違えることを恐れるようになりました。

JIN-KANA 学習塾（以下 JIN-KANA）に参加して数か月が経ち、私は主に、Mさんの英語を担当しています。彼女は高校生時代の私のように、間違えることに対しての抵抗心が強く、分からない問題があると声をかけるまでそこで止まってしまう、なかなか次の問題に進めない生徒でした。また、英語に対する強い苦手意識も持っています。しかしその苦手意識とは逆に、英語の成績はJIN-KANAの中ではトップクラスでした。Mさんは完璧主義なのか、一つひとつ確認しながらでないと不安になるようで、“成績は悪くはないのに自信がない”ということがMさんの英語の課題でした。そして、英語に対する苦手意識をできるだけ減らし、Mさんが自信を持って答えられるようにすることが初めて担当の生徒を持つことになった私の目標となりました。それに伴い、Mさんの指導計画を見直して学習内容も大きく変更し、現在は、達成感を得られる授業設計に取り組んでいます。帯活動として毎回単語テストを課し、合格点に届かない場合には別の課題を出すことにしました。その課題を通称“わくわく”と呼んでいるのですが、彼女は、「わくわくはやりたくないから。」と言って単語を必死に覚えてきてくれます。毎回合格しているのですが、ある回のテストでは合格点に届かず、「残念。不合格です。」と言うと、悔しそうな表情とともに、「もう絶対不合格にはならない。」と、次のテストに対するやる気を見せてくれました。合格、不合格とはっきり線引きすることで彼女の達成感の感じ方も変わったようでした。また以前は、既習事項の問題演習を行った後は解説のみで確認がなかなか取れていなかったため、問題演習・解説の後に更に確認テストを行うことで理解の定着を図るようにしまし

た。問題演習を重ねながら繰り返し確認することで、以前苦手としていた範囲も今ではすぐに解けるようになりました。問題を解く姿勢にも変化が見られ、少し余裕も感じられるようになりました。また、私に慣れてきたということもあるとは思いますが、笑顔も増えました。生徒の成長を直に感じることができ、もっと早いうちからボランティア活動に参加すればよかったなと後悔の念を感じずにはられません。

大人数の授業では、必ずしも個性が十分に発揮されるとは限りません。1対1のJIN-KANAだからこそ構築できる、生徒との人間関係について改めて考えていきたいと思っています。Mさんにとって学校とは別の居場所になるように、短い期間ではありますができるだけMさんに寄り添っていきたくです。JIN-KANAを通してともに成長し、志望校合格に向けて精一杯支えていきたいと思っています。

## 生徒に寄り添って

### 英語英文学科 3 年 安藤 あかね

JIN-KANA 学習塾を始めてから時間もたち、活動にも慣れてきました。週一回の活動の中で生徒や他の学科の学生たちと一緒に関わっていくことで、新しい学びを得ることができていることを実感しています。また、新しく学生も増え、ますます活発に活動できていると思います。雰囲気も変わり、より一層身を引き締めていきたいと考えようになりました。自分とは違った教え方・考え方を他の学生から吸収して、今後の活動に生かしていきたいと思っています。

私が担当しているHさんは明るく、はつらつとした生徒です。私はHさんのJIN-KANA学習塾の初回アンケートを担当したときのことを今でも覚えています。入塾時は緊張や慣れない環境のせいか声が小さく、発言も少ないように感じられました。それが今では、徐々に雰囲気にも慣れ、緊張も和らいだように思います。生徒同士のコミュニケーションも積極的にとるようになり、初めて会う学生とも楽しそうに学習を進めることができている。私自身、Hさんとコミュニケーションをとることが楽しいと感じます。Hさんとは、理科を学習することが多く、Hさんの分からないところと一緒に進めていく形をとっています。私の専門が理科ではないこともあるので、指導するときは一方的に



教科書の内容を教えるのではなく、寄り添って一緒に考えることを重要視しています。教科書の語句について大事なところは繰り返してその日の授業時間に理解できるように心がけています。最近休みがちなHさんですが、来たときには学校での出来事や進路についてなどを話してくれます。来たときには「よく来たね!」と労いの言葉をかけて、来られなかった時間が不安材料にならないように接したいです。

現在、JIN-KANA学習塾では入試を見据えた学習に移行してきています。入試に向けての学習のため、生徒たちがより真剣に学習へ取り組む姿勢が見受けられます。それぞれの生徒にあった学習のサポートをしていきたいです。今の時期の中学三年生は、進路に関することは少なからず不安材料になります。避けては通れない道なので、きちんと進路についての話をし、それに沿った学習を進めていこうと思っています。Hさんの声に耳を傾けて、しっかりと応えていくことを目指していきたいです。

## 私ができること

### 英語英文学科3年 影山 千恵

JIN-KANAでの活動を始めてから8カ月が経ちました。生徒もボランティアの学生も春よりも増え、毎回楽しく活動しています。だんだん受験が近づき、生徒たちは今までよりもさらに受験を見据えた学習になっています。

私はJIN-KANAでよくSさんの英語を担当しています。夏休み頃からSさんを見るようになりました。初めの頃は、テキストを使った学習や、学校のテスト前になると教科書を使ってテスト勉強をしていました。Sさんは英語が少し苦手ですが、テキストを使い、文法事項を説明しながら進めると、ほとんど間違えることなく問題を解くことができます。しかし、問題が習った順に並んでいないと、どのような文で、どんな文法事項を使えばいいのかわからなくなり手が止まってしまう。ヒントを出すとすぐにわかることが多いのですが、間違うことに抵抗があるのか、全く進まなくなります。また、自力で解いてもこちらが「大丈夫だよ」と声を掛けないと、正解した問題でも解き直してしまうことがよくあります。夏休み前までは、Sさんのペースで進めていこうと思って

いたので、そのような状態でもあまり気にせず学習を進めてきましたが、受験のことを考えるとこのままの学習では受験までに間に合うか不安になってきます。Sさんには1人で試験に立ち向かっていく力が必要です。そのためには「自分是可以する」という自信をつけていくことが大切だと思います。

Sさん自身、受験のことをすごく心配していて、自分は高校に入れるだろうか、と涙声で言っていたことがありました。そういうとき、ただ無責任に「大丈夫だよ」と言うことができず、自分はSさんに何をしてあげられるのだろう、と思いました。勉強を教える立場の私からは、学習面でのサポートしかできません。その中で、この問題さえ解ければ受験で戦うことができるという問題に絞ることが、私が、Sさんにできることだと気がつきました。やみくもに問題を解くのではなく、これから受験をするにあたって必ず必要になる、be動詞や疑問詞、現在進行形などの基本を、Sさんが「この問題なら解ける!」と自信がつくまで、限られた時間ではあるけれども、何度も繰り返して行うことが大切だと思いました。そうすることで英語の問題が解けるようになるだけでなく、Sさんの自信にも繋がります。

気が付けば受験まで残り4カ月です。限られた時間の中で、Sさんにとって、重要な点に絞って学習するかが大切になります。Sさんが受験の日に「私は1人で解ける」と自信をもって試験に臨むことができるように、短い期間ではありますが、自分ができることを一生懸命していきたいです。



## 成長を感じられる授業

### 英語英文学科 3 年 清水 浩平

JIN-KANA学習塾での活動を始めて、5ヶ月が経とうとしています。生徒数・学生数も多くなり、教室の中は活気に溢れています。生徒の顔と名前、通っている学校などを一致させるのに最初は苦労しましたが、今は自分が担当していない生徒とも楽しく話ができるようになってきました。

私はSさんと一緒に苦手な教科である英語と数学の学習をしています。Sさんはとても大人びています。また、家で弟の面倒を見ているといった話をよく私にします。学習面では、宿題を出しても全て解いて持ってきたり、わからない問題にも果敢に挑戦したりする姿が見受けられます。しかしSさんと学習を進めていく中で、問題を解いている最中に私の顔色を伺うといったことが今までに何度かありました。どうやら自分の解答に自信のないときに、私の顔を見て合っているかどうかを判断しているようでした。私はその様子を見て、Sさんは学力も大事だが、「自信を持って問題を解く」という気持ちの面も大事にしながら学習していかなければいけないと感じました。

私はこのことに気づいてから、間違いを指摘するのではなく、Sさんが発言したことに対して肯定的な反応を見せる、あるいは正しい答えを導くことができた時に賞賛を惜しまないといったことを強く意識するようにしています。「自信をもって問題を解けるようにする」と一言で言っても、それはとても難しいことです。火曜日、木曜日のJIN-KANA学習塾での1コマ1コマを大事にして、その中でSさん自身が「わかった」「できた」という成功体験を重ねることで少しずつ不安を自信に変えていくことができるのではないかと思います。

そんなSさんから、先日嬉しい報告を聞きました。それは英検3級の試験に合格したという知らせでした。JIN-KANA学習塾でも英検の対策を行っていたため、私はもちろん、ほかの学生や先生方にとってもとても喜ばしい報告でした。この成功体験はSさんにとって、自分に自信を持つという点においてとても大きな出来事になったのではないかと感じています。またこの出来事は今後の学習にも良い影響を与えたいと思います。日々の学習、JIN-KANA学習塾での学習は確実にSさんの力になっているということを私の口から伝えなが

ら、Sさんが今後の進路を自分の力で切り開いていけるように支援していこうと思います。

## やればできる

### 英語英文学科 3 年 滝沢 葉菜

JIN-KANA学習塾(以下：ジンカナ)に参加してから生徒と関わることの楽しさを知りました。ジンカナは生徒だけでなく、私にとっても大切な居場所になっています。私が担当しているのはMさんです。ジンカナに来た当初はアルファベットから練習していたMさんですが、今では自力で解ける問題もたくさんあります。どの教材を参考にして授業を進めたらいいのか、どの範囲をジンカナで学習すべきなのかとても悩みましたが、入試を見据え、少しでも入試で自信を持って解ける問題が増えるような学習を進めることにしました。入試に向けたテキストの中からMさんが解けそうな問題や入試に出そうな問題を選び、一緒に考えながら解いています。新しい表現や文法をジンカナで学ぶのは本人への負担が大きいため、ある程度解ける範囲を完璧に解けるようにしようという考えで進めています。また、Mさんは漢字があまり得意ではないため、問題を解くときには日本語の文を音読してから解くようにしています。このような学習を通して分かったことは、彼には私が思っていた以上の力があったということです。モデルなしでは読めないと思っていた英文は、少し間違ふところはありますが、自分の力で読むことができます。私が知らないと思い込んでいた単語もたくさん知っていました。英語の授業を行う際には、高校入試の単語の読みと意味の確認から始めているのですが、読める単語、意味の分かる単語が多くありました。今までは彼の力を過小評価しすぎていたのかもしれませんが。生徒の力を信じることの大切さを再認識した出来事でした。これからは私のほうから問題を解く際のヒントを与えず、生徒の力を信じて進めていこうと思います。

Mさんは英語の授業中に謙遜することが多く、学校の試験の点数が何十点も上がったにも関わらず、「すごくないよ。」と言っていました。試験の前には「きっと0点かな。」と口にします。しかし、Mさんには自分で解ける力があります。その力を伸ばすこと、Mさんが自信を持てるようにサポートすることが、私が彼のためにできること



だと思います。入試までのあと数か月、彼の力を信じて一緒に勉強していこうと思います。

## 生徒に合った学習

### 英語英文学科2年 荒井 千鶴加

私はJIN-KANA学習塾で、以前までSさんの英語を担当していた。Sさんは、笑顔が素敵でどのような学生にも分け隔てなく関わることができる人だと初めて担当した時に感じ、これから始まるSさんとの学習が楽しみだった。

Sさんとの学習を進めていく中で感じたことは、努力が報われないとやる気が減少してしまうということである。Sさんは、以前まで英語はどちらかという得意科目であったが、あるテストで自分の努力が報われず、英語が苦手になったと話してくれた。それに関して悔しいから次回からはもっと頑張ろうという思考ではなく、諦めてしまう考え方であることが分かった。JIN-KANAで普段行っている学習は1・2年生の復習であるが、テスト前における学習はできるだけテストに近い問題演習を行うようにしていた。具体的には、教科書の基本的な文の並び替え、単語の意味を中心に参考書を使用しながらよく出題されるものの類似問題を多く解いてきた。私が担当する以前にとれていた最高点数を超えるというのを目標とし、臨んだテストは最高点数のものと同じ点数であった。Sさんが結果を話した時の表情は満足気ではなかったため、次はその点数を超えるようにこれから学習していこうと言うと、次回も頑張りたいと話した。Sさんの努力が点数として現れることで自信が戻ったのではないかと感じた。

これに関してはほかの生徒にも言えることかもしれない。一概に全員とは言えないが、確かに現代に生きる若い世代はすぐにあきらめてしまう人が多いように感じる。それは私も同じである。心のどこかで、今やらなくても大丈夫、結果が出ないならしたくないと思ってしまっていることが原因の一つである。この思考から脱却するためには自分で達成度が明確にわかるものを設定し、自信をつけられるものにすること、普段の学習でも何のためにこの学習を行っているのかということ伝えることが大切だと感じた。生徒に自信を持たせながら学習を進め、今後の学習に生かしていきたいと思う。

## 知っているということ

### 英語英文学科2年 三浦 篤史

私は、今年度の9月からJIN-KANA学習塾に参加しています。その活動で、私は英語だけでなく、全教科を中学生と共に学び、また、特定の生徒とずっと関わってきたわけではなく幅広く生徒と関わってきました。そのため、生徒一人ひとりについて詳しく知っているわけではなく、生徒の苦手な分野やミスをしてしまう場所などを把握して、活動に参加できる状態ではありませんでした。しかし、すべての生徒に共通して、教科書を使う時や、問題を解く時に意識してきたことがあります。それは生徒に合わせて、より簡単かつわかりやすい表現で説明することです。5教科すべての教科書を見て、生徒に説明するとき、分かりづらい表現や語彙が使われている箇所や生徒自身の実生活には結びつきにくくイメージを持ちにくい単元を多く見てきました。生徒に教科書本文をそのまま読み理解させることやただ説明するだけでは勉強に対して抵抗を抱いてしまうのではないかと考え、図や絵を用いてより簡単に説明したり、仮定の話や実生活に近づけるなど生徒自身のこととして考えられるよう心掛けてきました。

生徒のKさんとの数学の学習では、教科書内容を理解するときや、問題を解くときにわからない箇所があるとパニックになってしまうことが多くありました。パニック状態になってしまった時に、簡単かつ生徒が理解出来る説明をしながら図やポイントを与えることによりKさんは問題を解くことができました。また生徒のWさんとの理科の学習では、イメージしやすいよう椅子や机を使用し説明したところ、「授業よりも理解できた」と言ってもらえました。そして実際の問題を解くときに、「これってさっきの説明してくれたところですよ」と言いながら、答えることができていました。

上記のように、この説明方法を用いて、生徒たち自身が最終的には説明できるようになり、ただ答えを知っているのではなく、答え方や考え方を知っているという状態になることが目標です。

この先控えている入試に向けて生徒一人ひとりとコミュニケーションを図り、またコメントシートに書いてあることまでしっかり把握し、細かいところまで気づきサポートし続ける。特定の生徒ではなく多くの生徒と関わってきた私だからこそ

できることを行い、生徒が入試を乗り越えられるように精一杯協力したいです。

### 自信をもって取り組むために

#### 外国語学研究科 2 年 佐藤 陽子

3 月から始まった今年度の中学校 3 年生への学習支援も、残りわずかとなりました。夏休みのキャンプや実用英語検定対策などの昨年度経験しなかったことを通して、普段の学習では見ることのできない中学生の新たな一面を知ることができました。また、それらを通してコミュニケーションの大切さを感じたことから、普段の学習でも生徒の声を聴くことに重点を置くようになったように思います。また、神奈川区役所のケースワーカーの方々と意見交換する場をいただいたことで、我々の活動がどのような役割を果たしているのか、改めて考えることができました。

今学期は 9 月に入塾した男子生徒と学習する中から学ぶことが多くありました。彼が入塾した当初から担当していますが、他の生徒同様、彼もまた英語が苦手としています。学校の授業が英語で進められていることで授業についていけなくなったようで、英語に対する苦手意識や拒否感が大きいように感じます。大学の教科教育法では「授業は英語で行うこと」を実践するために、どのような教授法や方法を用いて授業を行うのかを学んでいます。しかし、実際に英語で行われる授業で英語が苦手になってしまった生徒に直面して、教師の理想や考えだけを押し通すことで目の前にいる生徒を犠牲にしてしまうこともあるのだと考えさせられました。

彼は英語に対して非常に消極的です。学校生活の様子を話すときには楽しそうに話していますが、英語の学習で音読となると途端に声が小さくなります。また、自分ができないことを直視したくないことから、「そんなの知ってたよ」「わざと間違ったんだ」とごまかすこともしばしばあります。私が教科書の本文を音読したときには、「うまく発音できない俺のことをバカにしているの?」と言われたこともあり、彼の中にある英語に対する大きな壁を感じ、どのように学習を進めれば彼の苦手意識を減らすことができるだろうと何度も悩みました。

また、彼は学生に対して距離をとっているような面もあり、円滑なコミュニケーションがとれずに苦勞することも多かったのですが、最近では自分自身の話をするようになりました。学習とは関係ない話で時間を使うことに抵抗もありましたが、打ち解けることで学習がスムーズになった側面もあり、彼との学習ではそのような時間も大切にするようにしています。英文法ではなく教科書本文の題材内容を中心に進めることで、彼の関心を引き付けられることに気づいてからは、「どう思う?」「あなたの場合はどう?」とできるだけ彼自身に関連させるようになりました。

現在は、高校入試に向けてどのように取り組むのか、JIN-KANA 全体で考える機会が多くあります。担当する生徒とは、入試のための学習だけでなく、高校入学後も少しでも自信をもって英語に向き合えるよう、取り組んでいきたいと考えています。



## 生徒に自信を持たせるために

### 人間科学科4年 嶋 由加里

JIN-KANA学習塾は、中学3年生の受験に向けての学習をサポートするボランティアであり、週に2回神奈川大学で行われています。家庭の事情で塾に通うことが困難な生徒が、主な対象です。わたしは2年ほど活動に参加し、これまでにたくさんの生徒と関わることができました。単に勉強をするのではなく、生徒とは学校や部活、家でのことなど、学習とは直接関係のない話をすることもあります。一対一で生徒と向き合うことで、生徒のことをより深く知ることができました。そして、活動が続ける中で、生徒の家庭環境はさまざまであることを知りました。自分が育った家庭環境が当たり前ではないことを知ることができたのは、わたしにとってとても大きな学びだったと思っています。

現在、私はMさんという女子生徒の社会科を担当しています。Mさんは、何事にも熱心に取り組む生徒です。学習はもちろん、部活動にも熱心で、秋に引退するまで練習を一生懸命行っていました。JIN-KANA学習塾で学習する際は、わからない問題があってもすぐに答えを聞くことはせず、少しヒントをもらって自分で答えを導き出そうとします。問題をしっかり考えて、解くことのできる生徒です。しかし、完璧な答えを出そうとして、解答に時間がかかってしまうことがあります。また、論述問題を解くときは答えがある程度わかっている、上手に文章を作れなかったために書かずに関わりにしてしまったりもします。一緒に学習していくうちに、自分の解答に自信がないと答えられず、黙り込んでしまう姿が見えてきました。そこで、今では少しずつヒントを与えて自信を持って答えられるようにしたり、逆に全くヒントを与えずに予想を立てて答えを出させたりと、毎回考えながら学習しています。また、解答時間に制限を設けることもしています。最近では正確な答えが出せなくても、少しずつ自分の考えを発言するようになりました。今後も、Mさんの受験に向けてのサポートを続けたいと思います。

JIN-KANA学習塾は、先生方のサポートを受けながら学生が主体となって活動しています。過去には学生の中でうまく連携が取れていなかったことが、トラブルの原因になったことが何度もあり、

共に活動している者同士のコミュニケーションの必要性を強く感じています。これは、どの集団においても重要なことだと思います。また、活動の中でやるべきことがあると、つい誰か一人が全てを担ってしまうことがあります。責任をもって取り組むことは重要であり、一人の方が効率がよい場合もあります。しかし、一人で抱え込んで負担が多く、無理をして倒れた場合に誰も引き継ぐことができません。集団の中では共に活動している仲間と協力し、周りの人を頼ることも大切だと知りました。教員になった際にも、このことを忘れないようにしたいです。



## 生徒の気づきと成長

### 電気電子情報工学科4年 波々伯部 義樹

私が、JIN-KANA学習塾でのボランティア活動を始めてから1年が経ちました。JIN-KANA学習塾では、同じく教師を目指している仲間と一緒に活動しています。そこでは、生徒一人一人に合わせた学習を生徒と学生が1対1の形で行っています。生徒の学習活動をよりよくするために、学生間の情報共有や学習の内容を引き継ぐ工夫をみんなで考えて試行錯誤しています。

私は現在、中学3年生のMさんの学習支援をしています。MさんがJIN-KANA学習塾に来塾した当初はとても静かで落ち着いた雰囲気の生徒という印象でした。しばらくすると、彼女に変化が見られました。雰囲気が明るくなり、自分の意見をよく言うようになったのです。「ここは、どうすればいいの?」とわからないところは、聞いてくるようになりました。また、学習意欲がとても上がったように感じます。「この教科の勉強をしたい」「次の時間は、ここの勉強をしたい」など言うようになってきました。他にも、前回学習したところの類似問題を出すと「あっ!それ前にやったやつに似てる」「なんかやったことありそうだからできる気がする」と前回学習した内容を覚えていて気がつくことが増えてきました。

Mさんが高校に進学するまでに身につけて欲しいものが2つあります。それは、“諦めないで、できるところまでやること”と“できなくても、投げやりにならないこと”です。問題を解いているときに、計算ミスやできなかったりするときがあります。そんなときに「これは、嫌だ」「はあ、眠い」「今日は、もう頑張れない」のように言います。できる問題も解こうとしないで「無理」の一言で切り捨てしてしまうこともあります。しかし、最近は彼女自身もそれではいけないと思っているようで、できなかったところは、「次回の授業でここの問題をもう少しやりたい」と言います。私は、そこが彼女の伸びしろだと思っています。そこを彼女が伸ばしていければ、諦めることなく学習を続けることもできるようになると思っています。また、投げやりにならないために、わからない問題はそのままにせず一つ一つ丁寧に毎回の学習と一緒に取り組んでいます。そのとき、ただ解き方を教えるのではなく、どうしてそのようにするのかを説明して本人に問題の解法を気づかせ

ることを意識しています。そこで、できるようになったものが彼女の自信にもつながると思います。

これからは、入試に向けた学習を行っていきます。彼女も「たくさん入試問題を解いて、解き慣れたい」と意欲的です。これからもまた様々な問題にぶつかると思いますが、私は、彼女に寄り添って手助けできるようにしたいと思います。



## 生徒の変化

### 電気電子情報工学科2年 宮田 修斗

JIN-KANAを始めてもうすぐ2か月になります。学習指導として勉強を教えるのはこの活動が初めてでした。活動を始める前には、生徒とうまく仲良くできなかったらどうしよう、生徒にわかりやすい教え方ができるかどうかと不安でいっぱいでした。しかし、実際生徒の隣に座してみると生徒は笑顔で話を聞いてくれて、うまく打ち解けることができました。今では、おやつ休憩の時間に生徒の方から学校での話や部活の話などをしてくれるようになり、毎週2回のJIN-KANAの時間が私の1週間の楽しみになっています。

私は、中学3年生のY君の数学を担当しています。Y君は、やる気はあるけれど集中力が50分間続かないという印象でした。しかし、Y君のJIN-KANAに対する意欲は高く、入塾以来欠席は1回のみです。いつも教室に入ってきて私が近くに寄っていくと笑顔で挨拶をしてくれます。Y君は、数学の点数はあまりよくありませんでしたが、問題を解いているのを見ると数学が苦手なわけではないうでした。その反対に、むしろ数学を解くセンスがあると感じました。Y君との初めての授業のときにその話を本人にすると、「数学は好きだけど、計算ミスが多いのと時間内に解き終わらない」と話してくれました。それなら計算練習をしよう、ということで簡単な計算問題の宿題を出したのですが、その時はやってきてくれませんでした。私自身も宿題はあまり好きではないので、Y君に宿題を出すのをやめました。それからY君の学習指導をしていると、期末テストが近づいてきました。試験範囲を見ると範囲が広く、JIN-KANAの時間だけでは対策できないと思い、対策問題を作り宿題を出しました。範囲が広がったため対策問題の量はとても多くなってしまい、Y君は宿題をやってこないかもしれないと少しあきらめていました。しかし、次のJIN-KANAの時間に、Y君が私の方に寄ってきて「全然解けなかった」と宿題をもってきてくれました。宿題のプリントにはほとんどすべての問題に書き込みがありY君の努力が見られました。また、私が初めて見たころよりも授業中によそ見をする機会も減っていました。学校の成績もJIN-KANAに来る前に比べてあがったそうです。Y君はJIN-KANAに来て勉強のやり方だけではなく、勉強の楽しさを学ぶこと

ができたのではないかと思います。このY君の変化はJIN-KANAの一番の成果であり、本当の目的だと思いました。

この活動を始めて、数学を教えることの楽しさを改めて実感することができました。また、実際に生徒と関わることで教師になった時のイメージをすることができ、教師の大変さと充実感を知ることができました。これからの活動では、数学の楽しさを教えられるよう努力していきたいと思います。





## 生徒の居場所になるために

### 経営工学科 4 年 神代 正太郎

大学 3 年生の 5 月から始めた JIN-KANA 学習塾での活動も 1 年半が過ぎました。入塾してきた時は中学 2 年生だった本年度の塾生も、それぞれの進路に向けての勉強を頑張っています。さまざまな課題を抱えている生徒たちのため、私はいつも「生徒の居場所になる場所」を意識しながら活動しています。多くの生徒は高校進学が大きな目標です。しかし、中には学校にあまり行けていない生徒、高校がどのような場所か分からず勉強に対するモチベーションが上がらない生徒もいます。そのような生徒に対して、勉強だけではなくどのように声をかけていくか、どのように寄り添っていくかも JIN-KANA 学習塾の役割です。

私が多く担当している D さんは外国籍の生徒です。D さんの行っている中学校には AT(アシスタントティーチャー)のボランティアとして私も行っているため、学校での様子もよく知っていますし、中学校での D さんの様子もまた課題を持ったものがあると感じています。JIN-KANA 学習塾でも話だけで授業が終わることも珍しくありません。ただ、本人は定時制の高校進学を希望しています。高校で勉強できること、どのような勉強をすれば受験のためにいいか、この半年で本人とも多く話してきました。中学 3 年生になって周りの生徒も勉強を始め、本人も焦っていること、将来に向けて何をしたらいいかわからないこと、時には私だけにしか言わない不安や相談を授業中にしてくれることもあります。以前であれば、何とか勉強に気持ちを向けさせようと彼の話をさえぎって教材を差し出ししたりしていました。しかし、それでは D さんの不安は消えないままで、勉強には集中できずに JIN-KANA 学習塾を休むようになった時期もありました。JIN-KANA 学習塾に来なければ D さんと話もできないし、勉強も一緒にできません。そのことに気付いてから、私は居場所としての JIN-KANA 学習塾を強く意識するようになりました。彼の気が勉強に向いていないときには、私はとことん話を聞くことにしています。学校であった出来事や、最近聞いている音楽の話、進路に関係がないことでも話している中で彼が落ち着くのを待っています。話すことで気持ちも落ち着

き、勉強に取り組む時間も日に日に多くなっていると感じますし、成績も目に見えて上がってきました。何よりも JIN-KANA 学習塾を休まずに来る姿を見て、少なくとも彼にとっての居場所になっているのかなと感じています。

JIN-KANA 学習塾は勉強する場所というのはもちろんのことです。塾生一人ひとりのことを知りその生徒がどうなっていきたいのか、学生はそれをどうサポートするのか、そのことを考えることが居場所としての JIN-KANA 学習塾につながると考えます。将来教員になったときも、一人ひとりの生徒のことをしっかり見る必要があります。その力をつけていくためにも、これからも勉強だけではなく、JIN-KANA 学習塾がそれぞれの塾生の居場所になれるよう活動が続けていきます。





## 日進月歩～共に学び進んでいく～

### 物質生命化学科2年 高杉 俊

今年度の後期からJIN-KANAの一員として新たなボランティア活動を始めました。初日の見学でJIN-KANAを訪問させていただいた際、生徒たちだけではなく学生の方々の目も生き生きとしており、早くこの場において学習指導を行いたいというはやる気持ちを抑え、生徒と学生の様子を観察していたことを今でも鮮明に覚えています。

私が今受け持っているH君の最初の印象は、おとなしく内気なタイプで、これからどのように楽しく分かりやすく、そして笑顔の多い授業を運営していこうかと考えました。とにかく私自身が表情豊かに生徒と向き合うことが大切であろうと自身で考え、ジョークや雑談も交えながら授業運営をしていったところ、H君もさまざまなレスポンスをしてくれて、時に私をもからかってくるような様子で、表情豊かに授業に向かってきています。私が諸事情で欠席してしまったときも他の学生に「高杉先生クビになったの？」と尋ねていたこともあったと聞いて、H君も私を気にかけてくれて徐々に2人の絆も深まってきているのかなと、思いながら日々接しています。

私は主に数学の指導を行っています。私にとって数学というのは他教科との関連性がとても強いものであると思っています。その理由として私の体験談ではありますが、浪人時代に物理の力学分野の勉強に行き詰ってしまい、どうしても理解で

きるかと考えてみたところ、数学Ⅱの三角関数の分野の理解度が足りなかったことに気が付き、その分野の理解度を深めたところ自然とできるようになりました。そして、数学がわかることによって見えてくる世界が変わり、「数が苦」が「数楽」になっていくのであらうと思います。この体験を踏まえ、色々な例を挙げ他教科や日常生活とも関連づけた授業運営を心がけています。

しかし、そのような自分の授業運営に大きな問題点があったのです。それは理解度が充分でない場合においては、さらに生徒を混乱させてしまうということです。先日行われた学校ボランティア演習の報告会において、自分の授業スタンスを例に挙げて説明したところ、他の学生の混乱を招いてしまい先輩から指摘を受けました。そこで気が付いたことがあります。それは、自分のやっていることが高校時代に数学の学習につまづいた経験と重なるということです。その当時の教師の授業運営が、今私自身が行っていることに類似していたことが原因であったのです。私の授業方針を否定したのは過去の自分自身であったなんて衝撃が強かったです。色々悩みましたがそのなかで私の中で出した答えは、私自身ももっと数学だけではなくH君のことも理解したうえで、数学に必要な知識をわかりやすく伝えていこうということです。そのためには私自身も中学校数学に対する理解度をさらにあげていき学んでいく必要があります。「共に学び進んでいく」その精神を基にこれからも少しずつ歩んでいきたいと思っています。

**発行日:2016年2月27日**

**発行場所:神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)**

**TEL:045-481-5661(内線4352)**

**FAX:045-413-4154**

**E-mail:jy-sp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp**